

令和3（2021）年9月市長定例記者会見の概要と質疑応答

令和3（2021）年9月1日（水曜日）
午前11時～午後0時3分
柏崎市役所多目的室

1 発表事項

(1) 47歳以下の方の接種についてお知らせします

（主管：健康推進課）

65歳以上の希望者の方々は、7月末までに接種が終了しました。48歳から59歳の方々の接種は、9月19日に2回目の接種が終了する見込みとなりました。

8月31日現在の接種状況を申し上げます。接種対象者である12歳以上75,261人のうち、2回の接種を済まされた方が44,207人で、接種率は58.7パーセントです。65歳以上の方々は資料の通りです。柏崎の人口は8万人ちょっとですので、全人口の中でも50パーセントを超えるところまでできているとご理解いただきたいと思います。

16歳、17歳、19歳から47歳、合わせて約1万7千人の方々にはまだ接種のご案内ができていませんでした。この方々は、年齢を区切ることなく、まずは基礎疾患のある方、妊娠中の方とそのパートナーの方、出産後1年以内の方、医療従事者の同居家族の方を対象に9月10日から予約を始めさせていただきます。その他の方は、9月14日から始めさせていただきます。当初、期間を区切って予約を始めさせていただこうと思っていたのですが、区切らずに行うこととしました。接種は9月19日からです。

併せて、県の大規模接種センター上越会場でもモデルナのワクチンの接種を受けられることになりましたので、ご案内します。予約できる接種日は、現時点で9月4日、5日、11日の3日間です。県から配布を受けた人数は4日が140人、5日が112人、11日が124人でした。県の大規模接種会場、市の集団接種会場、個別の接種会場、職域接種などを含めて、おおむね予定通り、10月下旬前後には市民の皆さんの希望者の接種が2回終わられるのではないかと考えています。

すでにご案内させていただきましたが、県は9月3日から16日まで特別警報を発令し、飲食店の時短要請もすることになりました。柏崎市は、県立の施設に合わせて公立施設を9月3日から原則全て休みにします。

(2) 柏崎市 LINE 公式アカウントを開設

(主管：元気発信課)

多くの方々、特に若い方々が使っている SNS の LINE ですが、この LINE を使って市政情報を新たに発信・配信させていただきたいと考えています。柏崎市の広報媒体には広報かしわざき、ホームページなどいろいろな媒体がありますが、若い方々はホームページや広報かしわざきをご覧になるよりも、LINE で情報をもらいたいという方が多くなってきました。

トップ画面をご覧いただくと、基本メニューと防災メニューがあります。基本メニューは新型コロナウイルス感染症の情報、お母さんたちからのご要望が多い子育て情報、夜間や休日に急に具合が悪くなったときに役立つ休日・夜間診療の情報などがあります。

実際に操作してみます。例えば、この新型コロナウイルスのメニューをタップすると柏崎市ホームページの新型コロナウイルスの情報につながります。子育て情報をタップすると、子育て情報のメニューが出てきます。お子さんの生年月を登録すると、10 カ月健診など、そのお子さんに合った情報がプッシュ型で送られてきます。子育て情報のメニューには、すすくネットや子育て応援券に関するページに飛ぶことができます。また、乳幼児健診や予防接種の日程もプッシュ型でお知らせします。

次に防災メニューです。基本的に市ホームページの該当ページにつながりますが、友だち登録していただくと、防災行政無線の内容が届きます。防災メニューにはハザードマップもありますし、緊急時の災害情報にもすぐにアクセスできるようになっています。

また、柏崎市ホームページで検索件数が多いのはごみの関係です。この LINE では、トーク上で捨てたいものの名称を入力すると何ごみに該当するかが分かります。例えば、ボールペンと入力すると、ボールペンは「燃やすごみ」ですと出ます。先ほど豆腐と入力したところ、答えは出てきませんでした。豆腐のパックと入力してみましたが、それも出てきませんでした。まだ完璧ではありませんが、ごく身近なものであれば、ほぼ 100 パーセント出てきますので、ごみの分別、収集などにもご利用いただけるだろうと思っています。

若い方のみならず、お年を召した方もスマホなどを利用する方が多いと思いますので、柏崎市 LINE 公式アカウントを友だち登録していただき、大事な情報、役に立つ情報を随時、即時的に入手していただければありがたいと思います。

(3) 今年は動画で消防救急フェアを体験しよう!

(主管：消防署救急係)

毎年、特にお子さんに人気の消防救急フェアですが、新型コロナウイルス感染症の影響で2年連続中止となりました。そこで、お子さんたちに救急・消防の大切さを伝えたい、ぜひ消防士を目指してもらいたい、救急救命士を目指してもらいたいということで消防署が動画を作りました。その一部をご覧ください。今ご覧いただいた動画は短いものでしたが、YouTubeには7分ほどの消防救急フェア体験と5分ほどの消防士なりきり体験を用意していますので、お子さんをはじめ、保護者の方も一緒にご覧いただければと思います。実際にはしご車に登ったり、放水したりという体験ができる日が待ち遠しいです。

(4) 2021 柏崎の海の入込状況－昨年度に比べ海水浴場の入込状況は 35%増

(主管：商業観光課)

2019年、いわゆるコロナ前のシーズンは、海水浴場へ訪れた方は全体で573,660人でした。今年、2021年は250,810人でした。昨年と比べると35パーセント増ですが、おととしと比べると半分以下という状況です。柏崎市はかつて、海水浴場に1シーズン100万人が訪れたという時代もありました。

今年は番神自然水族館に非常に多くの方からお越しいただきました。人数としては総計で629人ですが、多くのお子さんが番神自然水族館で魚を追いかけたり、カニを捕まえたりしながら、お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんたちと一緒に楽しんでいただきました。年々利用者も増えてきています。

また、中央海岸にあるかしわざきセントラルビーチも、なかなかの入込だったのではないかと考えています。昨年始めたばかりなのであまり参考にならないかもしれませんが、今年は特に7月が非常に好調でした。これから秋に向けて、柏崎の秋の海の魅力も発信していかなければいけないと考えています。

2 質疑応答

◎新型コロナワクチン接種に関する質問

記者：集団接種会場で使用されるワクチンは今のところファイザー社製なのか。資料にはモデルナ社製ワクチンの供給が受けられる見通しとなったと記載されているが、これも集団接種会場で使用されるのか。

市長：ファイザーが基本ですが、一部モデルナが入ります。

福祉保健部長：モデルナは、いつから打てるかということも含めて調整中です。ファイザーを使いながら、モデルナを使う別日程を設けますので、1つの会場で同じ日にモデルナとファイザーを使うということはありません。

記者：8月27日の臨時記者会見で、47歳以下の方は予約開始の日程が決まり次第、改めて通知を出すという話をされたが、この通知はいつ頃出すのか。

福祉保健部長：近日中に発送予定です。

記者：基礎疾患のある方や妊娠中の方は9月10日から、その他の方は9月14日から予約できるとなっていて、基礎疾患のある方や妊娠中の方は予約時に基礎疾患があるという選択をすることになっている。この選択が自己申告ということで、基礎疾患のない方や妊娠中でない方も9月10日から予約できる仕組みになっていると思うが、その辺りはどうか。

市長：基礎疾患のある、なしというのはどこの自治体でも課題になっていると思いますが、基本的に自己申告ですので、性善説に託すしかないというところです。システムのところは福祉保健部長からお話しします。

福祉保健部長：システム上、基礎疾患のところにチェックを入れていただくだけでですので、実際に基礎疾患があるかないかは確認できません。

記者：以前の臨時記者会見で、ワクチンは必要量の8割程度しか国から供給されないと話されたが、今回希望される方に充足するような量は見込めるのか。

市長：ワクチンは、国から8割という基準で県を通して私共自治体に供給されることに変わりありません。私自身もどうして8割なのかと思っています。柏崎市では、65歳以上の方は9割が接種されていますので、他の世代の方も8割まで落ちることはないのではないかと考えています。国からは8割の部分がファイザーで供給されますので、モデルナの供給と合わせて、対象者全てに2回のワクチン接種ができる状況になったというところです。

記者：接種会場は旧市役所と考えてよいか。病院も考えているのか。

福祉保健部長：これまで通り、集団接種会場の旧市役所、市内の病院、一部の診療所で接種を行います。

記者：ファイザーとモデルナを使用するというので、現時点でファイザーとモデルナの割合がどのくらいになるのか予測がつけば伺いたい。

福祉保健部長：ファイザーとモデルナでは打つ周期が3週間と4週間で違いますので、1週間にどれくらい打つかをお答えさせていただきます。1週間の中で、モデルナの割合は36パーセント程度になります。

記者：これまでワクチン接種は年代を区切って案内していたと思うが、今回幅広く16歳から47歳にした理由は何か。混乱もあるかと思う。

市長：世代によっては、ワクチン接種を控えようと思っていらっしゃる方もいると承知していますので、年代で区切らず間口は広くしたいと考えました。一番大きな理由は、モデルナも含めてワクチン供給のめどが立ったということです。8月27日の臨時記者会見では期間を区切ってとお話ししましたが、この数日の中でモデルナの供給が見込めるようになったというある意味で綱渡り的な供給状況です。

◎臨時記者会見で発表した濃厚接触者の PCR 検査結果に関する質問

記者：8月27日の臨時記者会見で、小学校、保育園に関連した112人のPCR検査を実施すると話されたが、その後の状況を伺いたい。

市長：先にお話しした濃厚接触者112人のPCR検査は全員が陰性だったという報告を受けています。保護者、当該小学校、保育園にも連絡し、それぞれが部分的に再開していると承知しています。

◎新潟県が出した新型コロナウイルス感染症の特別警報に関する質問

記者：柏崎でも8月の1カ月で多くの方が感染されたが、一方で、特別警報が出ると経済が止まってしまうところもあるかと思う。特別警報が出されたことへの受け止めに伺いたい。

市長：すでに特別警報が出されていた新潟市、長岡市、小千谷市の状況を伺ったところ、経済に与える影響は非常に大きいとのことでした。柏崎市も特に飲食店への影響が大きいと考えています。私共も昨年からは飲食店には重ねて支援を行っていき、先般も専決処分させていただき、さらに飲食店だけを対象に支援すると発表させていただきました。柏崎市の飲食店は400店舗ほどありますが、その中で県の認証店として認証されているお店は40店舗ほどです。認証店であれば時短要請中でも午後9時までお店を開くことができると承知していますので、柏崎のお店もこれから認証に向けて手続きを進めてもらいたい、私共もお手伝いさせていただきたいと思っています。

記者：感染の状況を見ると特別警報は仕方ないと思われるか。

市長：仕方ないことだろうと思っています。この前も申し上げたように、柏崎市は昨年の4月以降182例の陽性者が出ています。このうち、8月の1カ月だけで97例出ていますので、この感染の急拡大、変異株の力などの状況を考えると、特別警報を県全域に出すという判断は、然るべきと考えています。

◎市議会から提出された新型コロナウイルス感染症対策に関する要望事項に関する質問

記者：議会から市長に提出された要望書には、飲食店の経営継続支援金の補助基準を売上高の50パーセント以上減少から30パーセント以上減少に緩和してほしいという要望や、飲食業者などに無償のPCR検査の実施をお願いしたいという要望があったが、これらの要望に対してどのように対応される考えか。

市長：まず、補助基準の緩和は考えていません。議長、副議長、議会の方にお伝えしましたが、飲食業の方には複数回の支援をさせていただいていますし、本当に厳しい、どうしようもないという方を支援させていただくというスタンスです。PCR検査は、やり始めたら毎日しないと意味がありません。優先的にワクチン接種をしていただけるような設えをしましたので、PCR検査に関しては申し訳ないですが、今のところ考えていません。

◎今年度の海の入込状況に関する質問

記者：昨年に比べて35パーセント増という数字を市長は多いと感じたか、少ないと感じたか。

市長：非常に頑張ったと思っています。特に7月は天候も良かったですし、お客さんの出足も非常に良かったです。昨年のコロナの状況と今年のコロナの状況を比べると、柏崎においては今年のほうが遥かに厳しい状況でしたが、7月のコロナの感染が少し落ち着きを見せていたときに天候が良く、たくさんのお客さんにお越しいただきました。

記者：昨年と比べると35パーセント増ではありましたが、おととしと比べると半数ということで、今後、柏崎の海の魅力をどのように発信する予定なのか伺いたい。

市長：市長に就任以来、この海の柏崎の在り方については、今までのままではじり貧になると申し上げて、観光ビジョンを作り、夏の海だけではなく、春も秋もという事業展開を進めてきたところです。その中の具体的な事例がかしわざきセントラルビーチです。春からキャンプ需要、バーベキュー需要も伸びていますし、秋以降の需要もあると考えています。海水

浴そのものが、若い方、その中でも特に女性にとってあまり魅力のあるものではなくなってきました。若い方にはもっと魅力のあるアクティビティがあるということを実感しています。かつてはひと夏 100 万人いた海水浴客が、おととしは 60 万人弱になり、今年は昨年よりは頑張りましたが 30 万人に至っていません。今ほども申し上げましたが、若い方、特に女性のアクティビティへの趣向性が海水浴には向いていない、いろいろなアクティビティを求めていらっしゃるということですので、サウナを作った事業者もいましたが、それぞれ事業者が夏だけではなく春・秋の集客に工夫を凝らしてもらいたいと思います。私共も観光協会と共に応援させていただきたいと思っています。

◎東京電力の不祥事に関する質問

記者：東京電力が今月中に一連の不祥事の再発防止策を出すと思うが、どのような再発防止策を望まれるか。

市長：今月下旬に出されると承知していますし、そこから原子力規制委員会もそれに対する審査などを始めるのだらうと思います。この 1 年間だけでなく、前にも申し上げたように、東京電力は大事な物事を決める直前に大きなミスを犯すことを繰り返してきました。私自身は昨年 11 月の選挙で、柏崎刈羽原子力発電所の再稼働の価値はあり、同時に、徐々に確実に減らすと申し上げて当選させていただきました。選挙も終わり、具体的なものが動き出すかと思われたときに、ID の不正使用などが出てきました。結果的に、原子力規制庁、規制委員会からは、2,000 時間／人という単位で再審査をするというお話があります。繰り返しますが、この 1 年間だけでなく、東京電力が過去、少なくともプルサーマルのときから自分たちが行ってきたこと、犯してきたミスをもう一度検証し、正確な、市民の皆さんの安全や安心を担保し得るような計画が出されるべきだと考えています。

◎拉致問題解決に向けた新潟県の市町村長の会の設立に関する質問

記者：拉致問題解決に向けた新潟県の市町村長の会が設立したが、柏崎と佐渡の市長が特に重要な役割を果たすと思う。この会の設立の意味と、どういうところに今後力を入れて活動されるのか伺いたい。

市長：この会の形成に関しては、私や佐渡市長が主導したということはありません。市長会会長の二階堂さん、町村会会長の小林さんに対して、家族会の方々がアプローチされてこの会が形成されたのだと思います。この形成に至った大きな要因は、横田めぐみさんのお父さまである横田茂さんが昨年ご逝去されたことだと思っています。

いわゆる拉致被害者の方が帰って来られた自治体である小浜市、佐渡市、柏崎市の3市で連絡会を作っていますが、先般アメリカ大使館でバイデン大統領へのメッセージを届けてきました。そこでのアメリカの姿勢は、私が想像していた以上に非常に強いものがありました。私が想像するに、トランプ大統領のときに、横田めぐみさんのお母さまである早紀江さんや拉致被害者の方々が直接大統領にお目にかかり、拉致問題について訴えたことが非常に大きかったのだと思います。アメリカ大使館で、今回は一等書記官にお会いしてお話を伺いましたが、アメリカとして非常に強い決意をお持ちだのと、日本と共にこの問題の解決を望むという強い姿勢が伺えました。

拉致問題の完全解決を求める立場の自治体としては、県内市町村長が一堂に介して拉致問題への決意を改めて確認したことは大きいと思いますし、それだけではなく、アクションを続けて起こしていかなければいけないと考えています。

◎東京 2020 オリンピック、パラリンピックの開催に関する質問

記者：東京 2020 オリンピック、パラリンピックの開催を巡って世論を二分する問題となったが、結果的には開催され、柏崎市は8月の1カ月間で新型コロナウイルス感染症患者が多く出た。オリンピック、パラリンピックとの因果関係は分からないが、結果的にこの1カ月で感染者が増えたことについて、オリンピック、パラリンピックを開催したことの是非を含めてどのように考えているか。

市長：私は柏崎の立場でしか申し上げられませんが、柏崎の8月の感染者が非常に多かったことと、オリンピック、パラリンピックとの因果関係はないと考えています。帰省を含めて、市外や県外への往来が激しくなったシーズンであることが由来していると考えています。

また、パラリンピックでは、柏崎の高柳にゆかりのある方が卓球で頑張っていらっしゃいます。今回のオリンピック、パラリンピックは選手の方々がかわいそうだったと思います。

本来であれば、多くの国民が喝采を送るオリンピック、パラリンピックですが、コロナがあるが故に、本当に開催していいのか、もしかしたらオリンピック、パラリンピックの開催がコロナの感染を拡大させたのではないかという疑念まで生じさせています。そのような雰囲気は選手に伝わっていくのは本当に気の毒だなと思います。もっと正々堂々と国民の皆さんと共に楽しいスポーツの魅力を発信する機会であるべきだったと思いますし、選手自身もきっとそのように考えられていると思います。

記者：オリンピック、パラリンピック開催の是非についてはどう考えるか。開催して良かったという考えか、開催すべきでなかったという考えか。

市長：私は開催されて良かったと思っています。ほとんどが無観客でしたが、画面越しでも、障がいのある方も含めて世界からアスリートが集まって、一生懸命に体を動かす姿、勝った喜び、負けた悲しみや悔しさが伝わってきて感動しました。開催されなければ、このスポーツの感動をなかなか伝えきれない部分もあると思いますので、私は開催されて良かったと思っています。

◎柏崎版「GO TO イート」キャンペーンに関する質問

記者：8月の記者会見で発表された柏崎版「GO TO イート」について、9月6日からチケットの販売が始まり、10月1日からキャンペーンが開始になるということだが、公共施設の閉鎖などもあるため、産業文化会館やアルフォーレでの販売はどうなるのか。また、このキャンペーンの予定を改めて伺いたい。

市長：公共施設での販売は、公共施設を閉めるので少し延びますが、基本的には10月からの開始は変わりなく行うつもりです。

記者：開始日の変更がないというのは、特別警報の期間を経て、10月になれば新型コロナウイルスが落ち着く見込みや期待があるということか。

市長：期待はしています。しかし、特別警報が延長されたり、まん延防止等重点措置に移行

したりということになれば、このキャンペーンの開始は延期しなければいけないというのは当然のことです。

記者：現時点で、いつからどこでチケットを販売するか決まっているか。

産業振興部長：当初9月6日から発売開始の予定でしたが、現時点では9月17日以降を考えています。改めてお知らせしたいと考えています。